

都市景観賞選考総評

選考会議議長 安枝 英俊



皆様、こんにちは、兵庫県立大学の安枝と申します。今から、第12回姫路市都市景観賞の総評をさせていただきますと思います。

今回は、部門を建造物、広告物、景観まちづくり活動という3つの部門に分けて募集をしまして、最終的に都市景観賞3点、特別賞3点を選考させていただいております。

まず、建造物部門について総評したいと思います。

建造物部門の都市景観賞に選考されています「姫路市文化コンベンションセンターアクリエひめじ」ですが、これは姫路駅近くに立地する文化交流の拠点施設であります。

かなり大規模な建築物なんですけれども、水平線を強調したデザインをしているということ、それから、屋上緑化が非常に豊かに計画されているといった辺りが、特徴的な建築物であります。

また、西側には細い列柱がずっと並んでおりまして、どうしても、大きな建物というのは圧迫感が出てくるんですけれども、こうした列柱下のピロティーの空間が、建物に奥行きを与えている点や、あるいは、姫路駅からずっと空中歩道が続いてくるんですが、その空中歩道が、そのまま建物の

中を貫通してロビー空間になっている点など、建物がどーんと建つのではなくて、周りの人の動きだったりとか、そういうものを受け止めるようなデザインがされていることも、非常に高く評価をされました。

また、それ以外にも、隣接する場所に公園があるんですけども、その公園の緑とも一体的に計画されているといった辺りも、非常に高く評価されまして、都市景観賞にふさわしい建築物だということで、選考させていただきました。

2点目の「カフェ 縁 eni」ですが、これは、新築ではなく改修物件でございます。

船場川沿いの住宅地にあるんですけども、当初のファサードを本当に見事に残された外観デザインが特徴であり、またそれが非常に町並みのシンボルになっているといった辺りが、高く評価をされました。

建物の中に入ってみますと、内部に大きな吹き抜け空間がありまして、そこにはステンドグラスなんかもつけられておりまして、外部だけじゃなく、内部空間の様々な意匠も十分に計画されているといったことがあります。

特に、1階の木製建具越しに内部の非常に美しい空間が垣間見えるといったような辺り、これも、外に全部がぱっと見えるのではなくて、木製建具越しに豊かな内部空間が垣間見えるという、このようなデザインの仕方も、非常に高く評価をされた建物でございます。

この2つが都市景観賞に選考された物件でありますけれども、建造物部門では、ほかに特別賞として、2つの建物を選んでおります。

1つ目が、「徳栄寺こども園やぎ園舎」でございます。古民家をかつてのたたずまいを生かしながら、見事に改修されている建物であります。

特に御覧いただきたいのが、手前側にメッシュのフェンスがあるんですが、もともとここはブロック塀がついていたんですけれども、せつかく中に古民家の立派な建物があっても、ブロック塀でまちからその様子が見えないといったことがよくありますけれども、やはり、まちから視認ができるといったことにも配慮されて、境界部分のフェンスも全てメッシュ型の、ちょうど内部と外部を緩やかに接続するような境界に更新されているといった辺りも非常に評価がされました。

また、この敷地の中には建物1棟だけでなく複数棟建っているんですが、こういうふうな事業をやるときに、一遍に全部の棟を改修あるいは事業化することによって、なかなか事業採算が取れなくなって継続できなくなる事例が多い中、順番に1棟ずつ段階的に活用していくという、こういうふうな手法については、今後の古民家活用の一つのノウハウとして非常に参考にすべきではないかといったような意見も、選考委員の中からは出ておりました。

もう一つの特別賞でございます、「姫路前山児童クラブ」は、田畑も点在するんですが新しい住宅地もあるといった、そのような場所の中に建っている放課後児童クラブ、子供たちのための居場所でございます。

この建物なんですが、まずやはり、白い外壁と大きな開口部というもので構成されるのが、非常に特徴的な建築物であります。また、このシンプルな構成がものすごく周辺の緑や空なんかにも映えているといった辺りも、我々も現地で確認する中で、非常に印象的な建物でございました。

この建物は、この施設の運営者さんが運営されている保育園と、それから南側に子供たちの農園があるんですが、ちょうどその2つに挟まれる場所にありますので、この大きな開口部というのが、保育園と子供の農園をつなぐといった意味もあります。単に中の子供の活動を見せるだけじゃなくて、周辺の建物

同士をつないでいくといった意味でも開口部のデザインがなされているところが、非常に高く評価をされた建物です。

最近では防犯性の観点から、子供のための施設というのが、どうしてもまちに対して閉じがちになってしまいますけれども、このような形できちっと安全性を確保した上で、子供たちの活動をまちに見せていく、こういうふうなデザインというものの先例になるということで、我々の中でも、非常に評価が高かった建築物でございます。

以上が、建造物部門の総評ですけれども、今年の建造物部門につきましては、これまでどちらかというと新築の物件が多かった中で、改修物件が都市景観賞で1点、それから、特別賞で1点入っていたということも非常に特徴的だったかと思えます。

では、次に、広告物部門に移りたいと思います。広告物部門につきましては、特別賞として、「磨き座 継 - HERITAGE - 」が選考をされております。これは、姫路駅前の商店街の中にある靴磨きの専門店です。

商店街の中には、いろんなサインや広告がついた建物が多い中で、非常にシンプルな外観デザインがなされている建物だということで、印象的でした。

これは、建物の店舗の入り口の開口部を、まず白一色の門型の壁にしまして、その壁に店名のテキストとロゴを記載するという、非常にシンプルなデザインであったことが特徴であります。また、このロゴにつきましても、このHERITAGEという、漢字で「継」という漢字なんですけれども、この漢字の一部のところ、上のほうに、靴磨きをするためのブラシであったりとか靴ですとか、そういうものがロゴの中にデザインされているということも分かりますし、何より靴磨き店だということ、あまりお店の前にサインや文字として出されてなくて、建物のちょうど右下のほうに磨かれた靴と磨く前の靴が2つ置かれているという、こういうふうなオブジェクトを置く

ことによって、この店がどういうお店であるかということを伝えようとするという意図が感じられます。

何か店名や業種みたいなものがあふれている商店街の中で、一つ、この建物の中でどういことが行われているかということ、見事にデザインの力を使って表現されているといったところも、高く評価された作品でございます。

最後に、景観まちづくり活動部門でございます。こちらは、「日笠山ののじぎく保存活動」が選ばれております。

これは、ノジギクを保護、増殖している活動につきまして、生物多様性・緑化・地域づくりという3つの観点から、非常に全国にも誇るレベルの活動がされていることが評価されております。

少し簡単に説明させていただきますと、まず、生物多様性ということに関しては、単なるノジギクという種を保全するだけでなく、地域固有の遺伝子の保全までなされているといった辺りが非常に高く評価をされております。

また、2つ目の緑化の観点からしますと、単に園芸種ではなくて、自然植生によって園を構成しているということも非常に特徴的です。

さらに、3つ目の地域づくりの観点からは、今回この団体さんがされている20年間の活動について、このノジギクの存在や活動の価値を、次の世代にも伝えていく活動も積極的になさっているという点も非常に評価をされているといったことで、私から申し上げるまでもなく、姫路市の景観まちづくりを先導する活動として非常に高く評価がされました。

最後に、建物というのはやはり、使われることによって価値が出てまいりますので、これらの建物が、市民の皆さんにとってまた愛着や親しみの場となることによって、さらに、都市景観賞というのが市民や事業者の皆様にとって、より美しい姫路のまちをつかってい

く契機になるということをお願いして、私の総評とさせていただきます。どうも御清聴ありがとうございました。